

Newsletter No.111

2026年(令和8年)7月

軽井沢ファームヴィレッジの収穫体験



チャンプニュースレター111号 目次

○山本代表のメッセージ		2
○アメリカよもやま話	山本儀子	3
○関西支部6月例会報告	岡田 優	4
○日本をしてみる会「かなごてファーム視察」	藤井克昌	5
○軽井沢ファームヴィレッジ訪問記	中林由行	6
○目からうろこの自然農	新堀ちや子	6~7
○第3回「明日を語る会」	安斉渥子	7
○第6回「新・本音の会」報告	神田 順	8
○活動会メモ		8
○今後の活動予定		8

山本代表のメッセージ



:Dear CHAMP Members and Members to be :

台風・地震など災害続く日本列島の梅雨期でした。お元気にお過ごしのことと存じます。

前号NL110では＜平和＞について語りましたが、本号では更に＜自然&人為災害＞に目を向けてみたいと思います。一寸先は闇、とは古い表現ですが、連日の様々な事件や事故の報道を見聞きすると、その現実性にはとします。皆様も、当たり前と思っている平穏無事な日常生活がいかに貴重なのだと気づかれたことがおありでしょう。

1.自然災害に備える：南海トラフ、東京直下地震などー来るだろうか、ではなく《いつ来るか》の時間の問題と言われています。ぜひ日頃の準備を怠りなくしておいて下さい。避難経路や食料の備蓄を再確認して下さい。準備できることはしておきましょうね。

2.人為災害に備える：これは自然災害よりやっかいなことだと私は思います。なぜなら、現代社会のひずみは想定できない形で現れてきているからです。加えて技術の進歩が悪用・乱用されています。人為災害には《闇バイト》のような犯罪だけでなく、大規模な災害には《原子力》《核》による災害があります。《核のごみ》高レベル放射性廃棄物は人体に有害なレベルに下がるまで数万年以上の管理を要するとのこと。にも拘わらず、現在新たな原子力発電や核開発が進められています。人間は過去に学ばないのでしょうか。

3.核拡散問題に注目して下さい：皆様はNPT（核兵器不拡散条約Treaty on the Non- Proliferation of Nuclear Weapons）を耳にしたことがおありだと思いますが、これは56年前＝1970年に米ソ英仏中の5カ国を核兵器国と認め、それ以外の国に核保有を禁じる仕組みで発効された約190カ国が加盟する核体制の根幹を成している条約なのです。

私は常日頃一体どの国・誰が、どこの国が核保有できて、どの国は核保有できない、と決めるのだと疑問に思っていました。NPTの存在を知って愕然としました。現在の核兵器保有問題の根源はこの条約に起因しているようです。世界唯一の核被爆国である日本の国民として、日本人はもっと積極的に核兵器の恐ろしさを世界に訴えるべきです。

★チャンプの出来ることとその使命：チャンプが1998年3月に1年有余の準備期間を経て正式設立してから丸28年になります。自分達の経験と知識を自身の向上と社会貢献に役立てようと50歳以上の成人が集まり、活動して来ました。2026年7月現在会員の70%が後期高齢者の年代ですが、設立当時の志と目標・希望は変わっていないと思います。私達と家族の未来は、私達の今・現在にかかっています。年齢に係わりなく、未来に関わって参りましょう。

チャンプ例会：関東では8/23日曜日に飯能日高のチャンプ本部で納涼会を開催します。関西チャンプでは9/16日曜日に神戸三宮で例会開催です。本号8頁をご参照下さい。

Best wishes, 山本儀子 Noriko Yamamoto
ホームページは「チャンプの会」で検索：メールアドレス joy@champuniversal.com

アメリカとトランプ政権の現状：

7月4日に建国250周年を祝った独立記念日までにトランプ大統領が意図していた目標の多くは達成できていない。2/28/2026のイラン攻撃以来、アメリカは予測を超えたイランの攻防に遭い、攻撃開始後4カ月半の現在、米国内の支持にも揺れが見られる事態となった。トランプ大統領が何度も公言した＜停戦合意＞は6/18付で覚書に到達したにも拘わらず、イスラエルの対レバノン（ヒズボラ・シーア派）への爆撃が続き、7/10現在トランプ大統領自身が停戦は無効でイランとの停戦合意・60日間の討議期間は意味がない、と述べる事態となっている。

トランプ大統領は11月の中間選挙を前に、支持率が揺らぐ状況であるとは言え、軍事力と経済力による＜強硬政策＞を堅持・継続している。アメリカでは米議会や裁判所の抵抗を突破して「独裁者」になるのは困難であり、現時点で11月中間選挙においてトランプ政権の失脚を期待するのは早い、との見方が多い。なぜなら、最近の共和党各州の予備選ではトランプ大統領が支援する候補者が多数勝利しているからだ（TX州上院予備選：5/26共和党新人ケン・パクストン州司法長官、CA州知事選：6月上旬スティーブ・ヒルトン、KY州下院選：5月中旬エド・ギャルラインがトランプ政権に批判的な現職トマス・マッシーを破り指名されている）。

カリフォルニア州の知事選：カリフォルニア州（人口数米国No.1約3,920万）とニューヨーク州（人口No.4で約1,974万）は東西の大州で共に民主党が多数のリベラルな州として知られ、大統領選への影響に多大なる影響力を有する。例えば、レーガン氏はCA州知事であったし、ニクソン氏も同州出身（ともに共和党）。

2026年11月の中間選挙では、民主党のハビル・ベセラ（68才サクラメント生まれ）とトランプ大統領が支援する共和党の上記スティーブ・ヒルトン（54才英国生まれ）の対戦となる。ベセラは両親共にメキシコ出身で貧困家庭に育ったが、スタンフォード大学に進み学士と法学士を取得し、加州では司法長官、バイデン大統領下で保健福祉長官を務めた。一方、ヒルトンは右派メディアFox Newsコメンテーターとして活躍した人物である。

その他の話題：アンソロピック社D.アモディCEOが、自社が開発した最新AI Claude Mythosは将来のAI使用制御に問題提起するかも知れないと警告したこと。

Space X ipo（Initial Public Offering新規公開株式）でE.マスクが兆万長者となった。Open AIもipolに続いている。

アメリカにおけるトランプ大統領の最新職務評価：

Real Clear Politics (RCP): 2026年6/07～7/02 承認 40.4% 不承認 57.6%
RCPは超党派で多数の報道・調査機関による世論調査結果を集計（上記はその平均値）し、信憑性が高いデータ源と見做される。但し選挙結果にその通りが反映するかどうかは不明。

Claude Mythos（クロードミュトス）とは？

- Anthropic社開発の最新AIモデル
- 全ベンチマークで最高性能を記録
- 一晩でゼロデイ脆弱性を自動発見
- 主要OS・ブラウザの脆弱性を検出
- 完全自律的動作(人の指示不要)
- Project Glasswingとして主要企業に限定提供

関西支部6月例会 報告

岡田 優

日時 : 6月18日(木) 17:30~20:30

場所 : 天満橋 京阪シティーモール8F「文蔵」にて

参加者: 山本代表、木下支部長、浅野様、沖様、加納様、辻様、藤原様、増井様、岡田の9名でした。

内容 : 始めに喉を潤すために「再会を祝い乾杯」の後
■山本代表の「アメリカよもやま話」他(30分)

①トランプ政権のアメリカにおける現状、RCPによるトランプ政権への評価アンケートなど

②米政権にも大きな影響を持つカリフォルニア州の知事選の状況

③アンソロピック社の最新AIの課題やSpaceXの上場など、それら先端技術の現状と市場評価などについて報告され、質疑、意見交換が行われました。

■参加者各近況報告等からの話題

① 山本会長から引き続き、書籍『食エネ自給のまちづくり』小山田大和著を紹介しつつ、CHAMP「世界視察の会」転じて「日本を見つめる会」が、この書籍にある神奈川の7つのプロジェクトの内4つを見学してきた話を紹介され、高齢社会到来の中耕作放棄地を活用したソーラーシェアリングでの食エネルギー自給などの可能性を強調。しかしながら、これらのまちづくりを具現化してゆく為には膨大な体力、精力が必要なことを実感したとのことでした。 関連して、

・食糧自給の話題になり、日本の食料自給率が38%しか無い中で、どのように自給率を上げるのか。草木や昆虫などの食品化などもあるが、鹿、猪、熊などの獣との上手な棲み分け、シビエの活用なども含め早急に対策構想が必要との意見も噴出しました。

・ソーラー発電と言えば最近「ペロブスカイト太陽電池の実装開発」が話題になっていて、Panasonicでも事業化に力を入れていると聞く。3次元に柔軟な形状に軽く薄くできるということなので、ソーラー発電は今後さらに多様に実用化してゆけるのではないかと。

② 年齢中央値77歳の関西支部メンバーで「近況報告」となるとついつい持病や体調不良への対策の話が増える。白内障の手術、難聴と補聴器、神経痛と整体院、静脈瘤の手術、等々、これらは参考にはなることも多いが、ちょっと場がネガティブ方向になり勝ちですね。

③ 相続の話題

・近くのホテルで相続対策セミナーがあるということで、覗いてきた。財産の大小に関わらず相続の対象や範囲をハッキリさせておくことがまず大切。

・アナログ、ハードな物についてはまだよいとしてもデ

ジタルな情報、サブスクなどで契約している事々については、解約できるようにパスワードなども相続人にわかるようにしておかなければ、自分の死後も契約はいつまでも続いてしまう(これも相続対象)ので要注意などなど。

④ 現在「お終活」(出演:高畑淳子、橋爪功、三田佳子、小日向文世、剛力彩芽、松下由樹ら)というシリーズ映画がちょっと話題になっていて、今その第三弾「お終活Ⅲ〜幸春!人生メモリーズ」が全国で劇場公開されている。このシリーズに柏市在の義姉が劇中コーラス団の団員としてボランティア出演しているというので見てみたが、葬儀社や認知症のばあさんなども出てくる笑いあり、涙ありの明るい映画で、人生100年の過ごし方としては参考になるかも。

皆さんも日ごろの息抜きに一度ご覧になってはいかがでしょうか。一関西支部で「終活」の話題がこんなに出てくるのにはびっくり!(関東ではもっと前向き?)

⑤ 息子に誘われて旅行に行くこととなり、旅行先を検討の結果、台南を訪問することにして計画中。台南はその昔台湾の首都ともいうべき街でした。台湾は支部メンバーの皆さんは昔行ったっきりの人が多く興味津々。高尾の近くなのかな一次回お土産話を期待しましょう。

⑥ 先日、「りそな」の偉いさんと建築家の坂茂氏(既に授与されたプリツカー賞のさらに上を行くともいわれるAIAゴールドメダルを今年2026年に授与された。勿論山本代表とも懇意)と食事する機会があってその時の話題一淡路島は「りそな」に乗っ取られるのではないかとと思われるほどに、りそなが資金面等に力を入れて坂氏と地域の振興政策プロジェクトでいくつもの拠点開発がなされ、観光地域振興が進んでいる。これからが楽しみです。

■次回は: 9月16日(水) 17:30~ 神戸三宮にて、
幹事: 浅野様(詳細別途)。



第2回 日本を見つめる会

ソーラーシェアリング「かなごてファーム」視察

藤井 克昌

日時：6月15日(月) 11時に小田原駅集合

行程：11:30 農家カフェ「Siesta」(かなごてファームの本部)に到着。弁当ランチを食べて、「合同会社かなごてファーム」の代表：小山田大和氏よりファームの取り組みの説明を受ける。13:00~15:30 レンタカー2台で4カ所ほどのソーラーシェアリングを見学。16:00 小田原駅で解散。

農地に柱架台を立てて農業を営みながら上で太陽光発電もできるソーラーシェアリング(農水省呼称：営農型太陽光発電、本文では略称として営農ソーラーと書きます)は長島 彬氏が研究考案した日本発の取り組みです。太陽の光エネルギーを農業と発電を含めた他の用途とシェア(分かち合う)するということで名付けられました。「すべては未来の子供たちのために」拡がって欲しいと特許権を外されました。初期は数十件から2026年現在では8,000件以上の全国的な取り組みになっています。

2011年に東日本大震災、福島第一原発事故があり、2012年から再生可能エネルギー普及のために固定価格買取制度(FIT制度)が始まり、それまで認められていなかった農地に工作物を作ることが2013年の農水省通達により柱の基礎部分のみ農地用途を一時転用することが認められました。初めは3年毎に再許可される制度でしたが、担い手による営農、荒廃農地の活用、十分な収穫量確保など一定の条件を満たせば10年に延長されるようになりました。これにより金融機関などの融資審査が通やすくなりました。

FIT制度が始まった頃の再生エネ買取価格は40円/kWhを超えた高額であったため採算性のみを重視した投機的な発電事業が主体になり、森林や山肌を切り崩して場所を確保する自然破壊のメガソーラーが問題になっていることは残念です。

農業経営に希望が持てず農地転用して不動産とし売り払ってしまえば途絶えてしまう地元農林業が、売電収益により一定の収益が見込め、本来の農作物の収穫にも取り組みやすくなります。

農業を疎かにした一部の不適切な営農ソーラーの形態があり地域の農業委員会などで問題視されているところも出ています。

見学いただいた小田原かなごてファーム小山田さんを始め、まじめに農業や荒廃農地の再生に取り組み、多様な農作物の栽培は元より、さらに1次産業の農業×2次産業の販売×3次産業の流通＝農業の6次産業化まで視野に入れてみかんジュース・日本酒醸造など地元企業との協働関係を築いて地域を活性化する農村経営までも視野に入れた取り組みをされている先駆者が全国におられます。

農業は近い将来電化が進み農作業の電動機械化、AIなどを取り入れた栽培管理、地元農家さんで農業法人化して栽培維持管理の持続性や省力化が必要になっていくと

考えます。その時、石油化石燃料に頼らないエネルギーとして営農ソーラーの再生電力が有効に働きます。

みなさんにソーラーシェアリングを実際に見ていただき景観的にどう感じられるかと思い、今回ご案内させていただきました。

日本の農地440万haヘクタールの17%の農地を営農ソーラーにすると日本の現在の必要発電量を賄えるとの試算があります。すべてではなくとも代々開墾されてきた農地の1割を営農ソーラーにして、風力、水力、地熱、バイオマス、建物の断熱性向上、EVや夜貯めておける蓄電池の普及を組合せれば、日本でも化石燃料に頼らない再生可能エネルギーによる安定的電力自給は可能です。

海外とのつながり強い企業ほど日本で不足している再生可能エネルギーの必要性が高まっています。

みなさんや学校給食、企業による営農ソーラー有機農法農産物購入や再生電力切り替え、さらには企業からの新規営農ソーラーへの出資などは大きな支援になります。今後ともソーラーシェアリング(営農型太陽光発電)にご注目ください。

最後に少し宣伝を、私が携わっているアースシグナルソリューションズめぐるでんきは再生電力100%のでんきを供給しており、収益の一部を東京や埼玉の地域課題を解決するプロジェクト・団体に資金還元しています。本社は川越市にあり埼玉県のソーラーシェアリングで35件以上の施工実績があります。

(写真上：ソーラーシェアリングの畑と小山田氏の説明、有機農法や自然農を採用。写真下：水田)



軽井沢ファームヴィレッジ訪問記

中林由行

期日：7月13日（月）10時に軽井沢駅に10名が集合
新しい活動会として企画中の「産地直送の農産物を楽しむ会
（仮称）」のプレイベントとして、「軽井沢ファームヴィレ
ジ（KFV）訪問」が実施された。

軽井沢駅に長崎智氏（KFV）、山岸征男氏（葉乃畑社）、安江
高亮氏（信州まちづくり研究会）が車で迎えにきてくれて3台
に分乗して、「軽井沢産地市庭」を経由し最初のKFV第1農園
に到着、

●第1農園、KFV代表の坂本京子氏に迎えらる。長崎氏の現
地説明。KFVが実践している農法には以下のみっつがある。

①「自然栽培」たがやすだけを行うが無農薬、無肥料、無除草
で実施。

②「自然循環農法」葉乃畑社の完全腐葉土を使うが不耕起、無
農薬、無肥料、無除草で実施。

③「自然農法」不耕起、無農薬、無肥料、無除草で実施
どの農法を採用するかは地力の回復程度をみて選択する。過去
に畑であって肥料や農薬を使用したところが自然の地力を取り
戻すには数年かかるので、最初は自然にまかせて土を休ませ、
次に「自然栽培」などで徐々に地力を上げてゆく。「自然循環
農法」は葉乃畑社の完全発酵腐葉土に出会ったので試験的に実
施しているがこの4年ほどで野菜に奇跡的な事象が見られたの
で今後重要な要素になるかもしれない。最終的には「自然農法」
を本命として目指しているが畑の地力に応じた最善の農法をい
ろいろな試行錯誤を繰り返しながらさがして行かなければなら
ない。ここにもいろいろな野菜が混植されている。

●第2農園に到着、鹿の食害があるので簡易な網で囲ってある。
植えられているのは、長ネギ、にんにく、セージ、アレタ、
カモミール、セロリ、スペアミント、ペッパーミント、ケール、
パクティ、ルッコラ、ルバーブ、わさび菜、トマト、バジル、
水菜、レモンバジル、ビル、ラディッシュ、からし菜、ゴーヤ、
落花生、ナス、人参、カブ、など非常に多種少量混植となっ
ている。混植は相性を見るためにいろいろ試しコンパニオンプラ
ンツを見つけてゆく。

●第3農園で収穫体験、ズッキーニ、ブロッコリー、レタスな
どを皆で収穫した。（表紙写真参照）

●葉乃畑合同会社を訪問、山岸氏より完全発酵腐葉土の製造工
程の説明を受ける。

軽井沢には沢山の樹木があり多くの落葉が出るが大部分がゴミ
として焼却処分されている。これを「腐葉土化して戻し大地を
豊かにすることで循環させ環境を守る」という有効利用のため
に事業をはじめた。主として別荘管理会社が個人の別荘から集
めた枯葉を引き受けて堆肥の原料としている。広葉樹が主でカ
ラ松の葉は除去する必要がある。秋に集めたものをまず細かく
粉碎し、第1発酵槽から第4発酵槽までの4段階で腐葉土化す
る。発酵には水と酸素だけがなくて時々切り返して発酵させる。
完全発酵までに6ヶ月～8ヶ月が必要である。（長崎氏の追加
解説：充分発酵させた上質な腐葉土である。しかし畑に入れる
場合は畑にしばらく積んでおいて充分土地になじませてから使
うのがよい。一般に市販されている堆肥は充分発酵していない
ものが多いのでそれをそのまま土に混ぜてしまうと地中で腐敗

したりガスを出したりしてかえって害になるので注意する必要
がある。）街路の枯葉は放射能が多い場合があり難しい、個人
邸の枯葉の堆肥はセシウムを測定して基準値の1/10以下であ
ることを確認している。

●第1農園にもどりバーベキューを楽しむ。

角田大徳氏（株）いっとうが牛肉、豚肉を提供してくれて採
りたての野菜とともに農園脇の草地でバーベキュー。野菜はラ
ディッシュ、レタス、きゅうり、パクティ、大根、えごま、か
らし菜、カリフラワーズッキーニなど多種あり、ほとんどが生
のまま食べられ味がしっかりしている（ナスも生のままで食べ
られるそうだがまだ収穫前で試食できず）。焼いた野菜もおい
しかった。ホイル焼きのジャガイモ、おむすびに味噌をつけて
食べたのも美味。飲物は麦茶、みかんジュース、ハーブティー
など。

（終了後、車で軽井沢まで送ってもらい、全員が新幹線で帰る）

●まとめ

前回の勉強会での長崎氏の講演（NL110号6Pの報告を参照）
では半信半疑であったが、今回現地を視察し試食してみて本当
に実現しているんだ、ということに大きな感銘を受けた。多種
の野菜が雑草と一緒に育っているのは畑というより「豊かな草
むら」という感じで、野菜も雑草も生き生きとしている。土の
表面を直射日光に当てない、と言うのが基本なので草で土が見
えない、雑草が大きくなりすぎたら抜かないで根元近くで刈り
取って土の上に残し枯れさせる。多種の野菜を組み合わせで植
えることで輪作障害も生じないとのこと。「自然農」と呼ばれ
る農法は少ないながら各地で取り組んでいる人がいるようであ
るがKFVで生産する「のーかる（農軽）」ブランドの野菜は独
自性が高いようだ。それは大地と自然の摂理を感得できる能力
を持った長崎さんが軽井沢という土地で試行錯誤を繰り返しま
ながら組上げてきた独自の農法だからであろう。外部から「教
えてほしい」という依頼はかなりあるとのことだが教えてもうま
くやれる人はほとんどいないようである。
今後チャンプの活動会として「のーかる」ブランドの野菜と付
き合ってもらえるかどうかは未定であるが検討の価値はあると思
われる。（写真下：参加者と長崎、山岸、角田の各氏）



目からうろこの自然農

新堀ちや子

雑草の中に愛する野菜たちが凛と立ち育っていました。
雑草こそ「宝」とおっしゃる長崎さんを信じました。私は今ま
で雑草は栽培植物の敵と思って居ました。以前お話を伺っても

半信半疑で今回の訪問を迎えました。

「百聞は一見に如かず」と言いますがまさに其の通りでした。植物にはそこで育つ土壌作りが大切、それは土を太陽に当てない事、そして根は土の中で大変な仕事をしているので掘り返したりしていいじめない事、環境を変えない事とおっしゃっていた事に納得です。

そして種はそこで育ったDNAを持っている種を作り育ててその種で代々受け継いでいくのです。1年や2年で成せる業ではありません。

又、植物同志の相性を見極めて植えるのだそうです何年もの体験から学べる業でしょう。知識だけではなく更に微調整を加えて栽培しているのです。これも体験を繰り返し失敗もして得た自信と思います。職人の感・手加減・さじ加減に通じる。植物同志が助け合い成長していくいじらしさを見ました。マリーゴールドがなぜ畑に？害虫除け、受粉に必要な虫を呼び役目をしていました。マリーゴールドありがとう。

育つ雑草を見ると土地の状態がわかるそうです。背の高い雑草が有る所は未だ状態が悪く良くなってくると雑草も背の低い雑草が生えてくるそうです。背の高い雑草を刈り取り敷き詰めて良くなるのを待つ。余裕のある土地を持ち時間をかけて土壌は作られるのです。

これが日本の農業に、家庭菜園に生かされる事は難しいことでしょう。

促成栽培・利益を考える今の農業に一矢を向けたいところです。そして私は、理解をし納得しました。美味しく栄養価の高い野菜の存在を知った喜びを嬉しく思います。この存在を伝えていきたいと思いました。

最後にバーベキューでおいしい野菜をご馳走になりました。甘いものは甘く、苦いものは苦く、辛い物は辛くしっかりと個性を持った野菜たちでした。

御馳走さまでした。

第3回 明日を語る会（旧：これからの暮らしを考える会）報告 安斉渥子

昨年11月に発足した”これからの暮らしを考える会”は今回で3回目を迎えましたが、どのような会にするかを皆さまと意見を出し合い、今回から会の名称を”明日を語る会”と改名することになりました。

会の方向は始めた時と変わらず、これからの生き方、暮らし方についてフランクに話し合い、各々の明るい有意義な余生を送るヒントになればという趣旨です。

従来のようにレポーターが用意したテーマの報告を聞くだけではなく、あくまでも全員参加で話し合う会にしたいということになりました。テーマは定めず柔軟に、日々の生活の中で気づいたこと、読んだ本やテレビやニュースからの話題等々を一人3分程度紹介をして皆で語り合います。これからの暮らしが明るく豊かなものになるように願いをこめて ”明日を語る会”となりました。

一人暮らしが多くなり会話の機会が少なくなったという声を耳にします。お互い明日の暮らしや人生を語り合いましょう！是非”明日を語る会”にご参加ください。

■第3回明日を語る会報告

日時： 6月22日（月）11時～2時半

場所： 上野田鶴子邸

参加者： 上野田鶴子、山本儀子、山田伸代、野村一郎、
畑京子、梅沢正巳、新井将史、山田信子、新堀ちや子、
手島達夫、安斉渥子

上野さんから、高齢（91歳）で都心への外出はかなわないが、我が家で良いならどうぞ、という嬉しいお申し出をいただき大勢で伺いました。井の頭線高井戸で集合し昼食の寿司弁当と飲み物持参で訪問し、たまたま米国より帰国中の娘さん家族（上野さんの娘、孫、ひ孫）にもお会いすることができました。

今回はメンバーの二人から提案されたテーマについてみんなで語り合いをしました。

1) 山田伸代さん The 100 Year Life（著者は社会学者であり心理学者のLynda Grattonと 経済学者のAndrew Scott）

本の紹介と読後感

社会情勢や環境の変化に伴い長寿時代をどう生きるか？

人生のシナリオは一つではない、70代、80代になっても学び直し、社会参加もできる。

人生を支える本当の資産は 健康、仲間、学び、好奇心など。長寿時代の幸せは自己の追求だけでなく、人との関わりあいと対話により人生を豊かにすることができる。

読後感及び語り合いでは 人との繋がりが人生を支える点に納得し、柔軟で多様な選択の機会を広げ他人との交流により楽しい充実感あふれる成熟時代を送ることはチャンプの主旨にマッチする。分厚い原書を読んでチャンプの会員で良かったとの感想を寄せてくださった山田伸代さんには感謝いたします。

2) 畑京子さん 今も続くご主人の介護の経験談

畑さんのご主人は心臓弁膜症で人工弁になり、その後前立腺癌の治療の副作用で骨粗しょう症を併発。スポーツマンだったのに転倒を繰り返して、肩、鎖骨、仙骨、踵、肋骨、手首、大腿骨、腰と骨折を繰り返し、今回は8回目で砕けた骨の修復に自分の骨と人口股関節を用いた大手術をしたそうです。妻としての立場で毎回治療方針の説明を聞き同意を求められ、精神的にも苦境にある中、入退院の手続きや書類作成などで自分自身も体調を崩したそうです。ご主人はリハビリには前向きで意欲的に向き合っているようですが、畑さんの実体験を通して老々介護の大変さを実感しました。

今回は上野さんに場所を提供していただいたお陰で時間を気にする事もなくゆっくり寛いで語り合いを楽しむことが出来ました。次回は9月末を予定しております。後日案内をお送りしますのでどなたでも気軽に参加してください。

お問い合わせは 手島達夫 t8tejima@gmail.com

安斉渥子 atchananzai413@gmail.com

活動会メモ

1. 英語を共に学ぶ会 (ZOOM)

・第286回 4月25日

コディネーター高橋嗣雄会員「憲法改正について」参加者6名

・第287回 5月23日

コディネーター安斉渥子会員
「Generation Gap」

参加者8名

・第288回 6月27日

コディネーター新井将史会員「クリントン氏のオバマ氏応援演説」参加者8名

詳細はHP参照 (幹事：高橋嗣雄)

2. チャンプ・LINEの会

常時自由なトーク交換が行われています。(幹事：手島達夫)

3. チャンプ散策の会

天候不良で春の第8回を延期し秋を計画。(幹事は5名)

4. コーラスを楽しむ会

7月10日に第51回を実施。
毎月第2金曜日の10:00～12:00に開催。

(幹事：中林由行)

5. 新・本音の会

5月14日に第6回をA-Forumで開催。詳細は本号8Pを参照。第7回は9/2(水)の予定。(幹事：神田 順)

6. ゴルフ愛好会

次回開催企画。

(幹事：森田宏次)

7. 明日を語る会

6月22日に第3回を上野田鶴子邸で開催。詳細は本号7Pを参照

(幹事：手島達夫、安斉渥子他)

8. 日本をしてみる会

第2回が6月15日「小田原かなごてファーム訪問」として開催。参加者10名、詳細は本号5Pを参照。

(幹事：木下義雄、藤原千恵他)

・以下は現在休止中です。

9. 日本文化を語る会

10. 海外をしてみる会

《編集後記》
サッカードは世界最大のスポーツイベントですが、今回は世界最大級のイベントを呼ぶことができました。原稿もたくさん寄せられました。視察が共に先駆的な農業で今後の発展が楽しみです。(中林 記)

■第6回 「新・本音の会」報告

神田 順

5月14日(木) 13時から15時まで、お茶の水のA-Forumをお借りして、第6回「新・日本の現状を本音で語る会」を開催しました。今回のテーマは「日本国憲法について」。ウクライナの戦争の終わりの見えない中で、さらにガザ、イランと悲惨な戦争が日々報じられている。さて日本では、どう備えるのかということから、本音で論ずるのなら、憲法で語ろうということになった次第である。

今回、初めて顔を出すという人も含めて10人。基調報告は、山本と高橋の二人からの丁寧な話題提供で始まった。

山本はA4版1枚のメモに加えて、ネットからの日本国憲法全文とAIによる三大原則と改正の論点をまとめた資料をもとに15分。1960年安保闘争時には、翌年渡米する身として声をあげなかった、当時の思いも語った。武器の5類型撤廃の武器輸出解禁は、経済しか考えていない現首相の判断。9条2項と自衛隊の位置づけについては、しっかり議論すべきとした。

高橋は、A4版5枚のメモをもとに、憲法誕生の経緯、自衛隊の合憲・違憲論争、世界主要国の改憲の実態、さらには、皇室典範の改正問題についても触れて、20分で紹介した。メキシコの252回は特別としても、80年にわたり1度も改正されていないのは、日本だけで、それだけ簡単に改正できないしくみになっていることは言えそうだ。

時間も限られていることから、今回は9条を中心に議論することとした。

口火は、奥田から。日本は侵略戦争を永久に放棄するという内容の第九条の前文、この前文の精神は人類の遺産であると思う。ただし、自衛のためには、自衛隊を憲法にしっかり位置づけないと日本は生き残れない。手島も、GHQが日本人を反省させ、敗戦のトラウマを引きずって、書いた憲法になっていて、現代において無理があり、自衛のための戦力保持を謳うべきと。

梅澤は、憲法は国体そのものを現わすものであり、その時代にあって美しく書かれていることが必要と。守るよりは、攻める方が安上がりという。ロシアやイスラエルには、そんな現実的な判断があるということなのだろう。

國安は、規則があれば真面目に守るのが日本の特徴。そんな国はほかにない。

波田野は、80年平和でいられた理由は、アメリカ経済頼りで来たこと。今後もそのような関係で居られるとは思わないので、どうすべきか議論が必要。天皇制を残したアメリカの判断は、良かった。

高橋は、昭和天皇が、マッカーサーに「私は殺されても構わない」という心が通じたという。これも言葉による命をがけの外交ということだ。

9条2項の条文を読むと、「前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない」とある。前項の目的とは国際紛争の解決手段として武力を行使することであり、自衛については、この限りでないというように読めるが、それが自衛隊は違憲ではないということの現在の公式的な理解ということになる。国際法上、自衛は認められているというのが国際連合における解釈である。

ただし、自衛隊が明示的に憲法に認められていないことが、問題であり、改憲が必要という声は大きかった。神田の思いとしては、国際法上、自衛が認められているのだから、9条2項とは、矛盾しないと考えれば改正する必要はないし、今の政界情勢で、そのような状況の発生する切迫性もないと語ったが、どうやら少数意見であったように感じた。

全員の声を記せなかったこと、写真もお一人、新参加の稲葉美恵子さんの顔が隠れてしまったこと、お許しください。

さて、皇室典範のこと、人権の問題、文章の美しさなど、憲法をまだまだ論じたいという雰囲気は残ったものの、とりあえず一休みして、今回は、建築法制度の話をしようということとなった。話題提供は、手島と神田により、9月2日(水) 13時から15時、お茶の水A-Forumでの予定です。



■チャンプ今後の予定

● 8/23(日) チャンプ納涼会 会場：チャンプ本部(飯能日高) 11:45～、池袋10:30発西武池袋線特急利用・申込はjoy@champuniversal.com まで

■チャンプ関西の予定

● 9/16(水) 9月例会 17:30～ 会場「Dynamic Kitchen & Bar 燦・神戸」

(上記予定の詳細については全会員にメールでお知らせします)